

第3章 都市づくりの課題

人口減少・少子高齢化が進行すると、市民の生活利便性の低下や、地域経済や財政等の悪化が懸念されます。

第2章 現況分析の結果を踏まえ、持続可能な都市を形成するため、生活に必要な都市機能や居住地の確保と定住促進、公共交通ネットワークの形成の観点から、本市では以下の課題に対応していきます。

課題1 都市機能が確保された安全な市街地での人口密度の確保

本市は、生活に必要な医療、福祉、子育て支援、商業等の都市機能増進施設が市域にバランスよく配置され、類似都市との比較でも生活利便性が高く、市民の暮らしやすさに対する評価も高い状況です。しかし、人口減少・少子高齢化の進行により、都市機能の維持が将来困難となってくることが懸念されるため、周辺に都市機能が確保された居住地において転入・定住を促進し、人口密度を確保していくことが必要です。

また、洪水や高潮、大規模地震による津波災害の危険性が高い居住地において、災害に対する安全の確保が必要です。

課題2 中心市街地の空洞化の抑制

名鉄知多半田駅から市役所周辺までのエリアである中心市街地では、基幹的な都市機能が集積し、広域的な公共交通も整備されており、生活利便性が高い一方で、JR半田駅東側では空き家が多く分布し、人口や世帯数が減少しており空洞化が進行しています。また、地価公示価格は回復傾向にありますが、約25年前と比較すると半減しており、土地の価値が低下している状況です。中心市街地での都市機能の充実や居住誘導を図っていくことが必要です。

課題3 若い世代の転入・定住を促進する住環境の確保

本市の人口動態を見ると転出超過の状況にあり、人口減少が課題となっています。特に、ライフステージの変化に伴う転出も多くなっていることから、子育て支援や商業等の都市機能の維持・充実といった若い世代のニーズに対応した住環境を確保し、若い世代の転入・定住を促進する必要があります。

課題4 高齢化を見据えた安心して生活できる交通環境の確保

高齢者の単身世帯・夫婦世帯が増加傾向であり、少子高齢化の進行が見込まれるため、高齢者が安心して生活を送ることができるよう、自動車を利用しなくとも、公共交通により鉄道駅や基幹的な都市機能増進施設にアクセスできる交通環境を確保することが必要です。